

山寺ふるさと便り =第10号=

宝珠のしずく

題字 後藤仁田(性相院)

発行所 山寺公民館

〒999-3301 山形市山寺517-1
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会

世界へ、山寺の魅力発信



山形新聞社提供



“ウェルカム” ようこそ山寺へ

平成十七年十月十一日、山寺中学校三年生十九人が、山形国際ドキュメンタリー映画祭に訪れた各国ゲストの方々に英語で観光案内を行った。近年外国人観光客が増えていることから、三年前より英語のガイドブックを作り外国語指導助手相手に模擬案内していた。折よく、山寺観光協会から映画祭参加外国人への観光案内ができるのではないかとという提案があった。

「国際交流の絶好のチャンス」「自分達の山寺の素晴らしさを世界に発信できる」と、生徒達は意欲満々で取り組み、猛特訓を始めた。

当日、天気にも恵まれ、メモを片手に「根本中堂では不滅の法灯」「五大堂では里山ののどかさ」等、時折ジェスチャーを交えながら、見事に山寺の魅力を紹介。お客様は身を乗り出して聞き入り、大喜び。

案内後、生徒達は口々に「勉強したことが通じてうれしかった」「つなぎの会話ができなかった」「英語だけでなく、中国語・韓国語も習って、たくさんの国の人達を案内したい。」と。

“秋日和 英語で案内 宝珠山”

美石

※後日、学校の方へ各方面から賞賛の声が寄せられた。また、JRC山形支部より依頼され、シンガポールの高校生をも案内した。

クラブの1年

- 4月＊終了式・入所式
＊立石寺参拝(ミニ遠足)
- 5月＊山寺自然探険
＊ミニトマト・ポップ
コーンを育てる
- 6月＊サクラランボ狩り
(＊イチゴ狩り)
＊かじリンピック
- 7月＊映画鑑賞
- 8月＊お泊り会
- 9月＊ぶどう狩り
- 10月＊芋煮会(保護者会主催)
＊山寺地区文化祭参加
- 11月＊山寺自然探険
- 12月＊クリスマス会
＊サニール山寺訪問
- 1月＊鏡開き
- 2月＊豆まき
- 3月＊ひな祭り
＊ひな寿司づくり
- その他の活動
＊月2回の昼食づくり
＊週2〜3回のおやつづくり
＊山寺公民館での読書
＊3ヶ月1回のお誕生会
＊長期休みでの伝統遊び
＊工夫した遊び

山寺学区児童保育 かじの木の子ども達

題字：穂波・原田



4月 入所式

ともあったよ!



2月 第3回山寺こけし雪だるまコンテストで、第3位入賞(モリゾー・キッコロ)



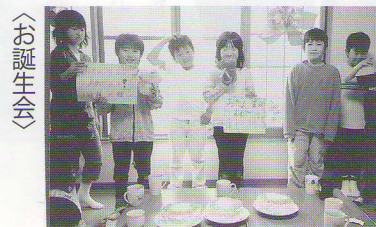
〈クリスマス会〉



〈かじリンピック〉



〈お泊まり会・かじの木の宿〉



〈お誕生会〉



〈豆まき〉



〈鏡開き〉

山寺小学校学区児童クラブ
「かじの木の子ども達よ
大きく育て!!」

この「子どもクラブ」には、山寺地区の『子育て支援センター』としての役割を担って欲しいという大きな期待がかけられている。

クラブの運営のポイントを、
第一に、山寺小中学校との連携を
緊密にしよう。

第二に、このクラブが単なる託児所ではなく、数多くの子ども達を大事に育てる支援の場にしよう。

第三に、山寺を学び、山寺を活用し、山寺を発信する場になるようにしよう。

指導の先生方は、
『かじの木クラブだからできる』、
『かじの木クラブでしかできない』
多彩な活動を工夫している。

クラブに集う一年生から五年生ま

での子ども達は、自分達を「昼間の

クラブの1日



〈おやつ時間〉

*学校から、クラブへ。
「ただ今」、すぐ手洗い。
*まず、宿題をやる。
1年生から5年生まで、机を囲んで楽しい宿題学習。わからないところ? 「それわね。」と、お兄ちゃん、お姉ちゃんが、教えてくれる。
*元気に、自由遊び。
クラブには、テレビも、ゲームもない。工夫して遊ぶ。
*おやつ時間。
自分達でつくる。山寺の野菜や果物等をたっぷり使って。食器洗い。
*お部屋のお掃除。
もうすぐ、午後6時。
おうちの人、迎えに来る。



〈紙芝居に夢中〉



〈さあ、宿題だ〉

山寺小学校 学 かじの木のきょうだい



4月 入所式

地域の先生 ありがとう!



〈おじゃみ(お手玉)〉



〈ガラッキー(カナダの遊び)〉



〈お習字・たくさん書いたよ〉



〈わくわくクッキング〉

こんなこともあ



7月 高瀬つ子クラブとの交流会

2月
第3

での子ども達は、自分達を「昼間の兄弟」と呼び合って、安全に、楽しく過ごしている。この充実した放課後の過ごし方はピカイチ。
子ども達はもちろん、保護者からも「かじの木クラブに入ってよかった。入所させてよかった」と好評。
クラブの保育時間は、原則として、平日の放課後の時間である。月曜日から金曜日までの放課後(午後六時まで)と土曜日(午前八時半~午後六時まで)。
また、学校の長期休業期間中は、別途保育時間を定めている。
詳しくは、かじの木クラブ(TEL 69512325)にお問い合わせを。活動参加はいつでも大歓迎。

「山寺かじの木子どもクラブ」は、平成十六年十一月一日に山形市の補助事業として発足し、平成十七年四月一日に山形市の委託事業となった。

クラブに集う一年生から五年生ま

平成17年
(2005年)

地区ニュース

第一回全国しし踊り フェスティバル



磐司祭(八月七日)、山寺宝珠山立石寺根本中堂前広場で、第一回全国しし踊りフェスティバルの開会が告げられた。多数の観光客。地元山寺の方、大勢。澤渡、長瀬、高橋、深澤保存会からの山寺開山ゆかりのしし踊り奉納が始まった。

荘厳・華麗な踊りが折からの暗い雨空を吹き飛ばす。カメラのフラッシュが幾筋も。繰り出される踊りに魅了された観客の姿が印象的。大きな拍手。成功裡に終わった。

東北芸術工科大学菊地和博助教授

から「全国各地のしし踊りが山寺の地に会して『全国しし踊りフェスティバル』なる催しができないものか」という提案があった。

この提案を受けて、村山地方のしし踊り保存会と磐司祭実行委員との意見交換会がスタート。菊地助教授の講話と指導のもとに、伝承や資料を突き合わせる中で、村山地方のしし踊りと宝珠山立石寺との関わりが明らかになってきた。また、千歳栄氏(庶民信仰・山岳信仰に造詣が深い)からは、貴重な講話を頂いた。

実行委員会は、「このフェスティバルを、各保存会並びに、山寺の後世を担う世代に自信と誇りを持たせるものにしていきたい。」との熱い想いを持っている。



第一回法話のつどい

—観音様のお話—

八月二十日、南院集会所で「観音様のお話」があった。華蔵院住職、榎森裕田師の法話である。

山寺は立石寺を中心とした仏教王国であったし、慈しみの里として発展すべき土地柄である。その第一歩として発案されたのが法話のつどいである。

当日、立石寺様の祝辞、尺八と琴の祝奏に続いて裕田師の法話があり、各寺院の住職の方々を始め参加者は四十名を越え、観音様のお心に迫る話に感激、次回が一層期待される。

お世話下さった塔中寺院檀徒会長遠藤正治さん、老人クラブ会長の後藤静雄さん、ありがとうございます。



合格祈願法要

—根本中堂にて—

十二月十八日、折からの豪雪寒波の中、立石寺根本中堂で学業成就合格祈願の法要が復活した。実に三十七年ぶりの事である。

参加者は県内外から十三組。智慧随一と讃えられる文殊菩薩の御加護を願い、清原浄田貫主から大般若経本で頭やからだをぬぐってもらい、勉強に一層精進することを誓い合った。入学試験はもう目の前。全員の合格を祈る。

法要中の凍え切った体に観光協会からの温かいお汁粉が何よりのご馳走となった。

この行事が評判を呼んで参加者が増え、立石寺一山寺院挙げての一大行事に発展することを願っている。



山形新聞社提供

山寺地区振興会の活動

一歩進んだ山寺づくり

山寺は、

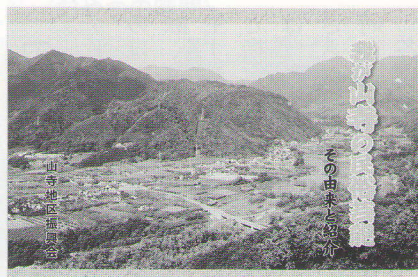
一つ、慈覚大師開山の地である
二つ、松尾芭蕉が訪れた地である
三つ、優れた景勝の地である
ことを誇りにし取り組んだ平成十七年の振興会活動を報告したい。

第一は、「山寺を知る」活動

「元氣な山寺」の基盤は、何といつても、山寺をよく知ることである。写真カレンダー「もう一つの山寺・山寺の四季と山寺民俗芸能」と小冊子「山寺民俗芸能、その由来と紹介」を作成し、全戸に配布した。民俗芸能の発掘と継承に努められてきた保存会に改めて敬意を表する。

第二は、「山寺地区民の連携」活動

山寺をより「安全で、安心して暮らせる地区」にするには、地区民相



互の連携活動が何よりも重要である。そのために、「山寺地区防犯・防災連絡協議会」を結成した。各団体が横の連携を取りながらよりきめ細やかな活動のできる体制をつくった。「備えあれば憂いなし」の「安全・安心な、心癒されるくらしづくり」を支える活動が大きく前進した。また、今年度の山寺地区文化祭が、多くの方々の意欲的な取組みで、模擬店が開店され、地区文化祭がより楽しい、心温まる賑わいになった。

第三は、「山寺からの情報発信」活動

山寺地区内外へ山寺の情報を発信し続けることが「元氣な地区づくり」の基本である。今、山寺地区内で「何が話し合われ、どのように進んでいるか」を共有できるように努めてきた。

地区内では、「振興会ニュース」の発行がまもなく八十号を数える。また、山寺地区の活動がマスコミの関心を呼び、注目度がアップした。

元気でやってまゐす

ありがとう

ボランティア活動！

◇老人クラブ一年二回山寺公民館周りの草取り・草刈りをする。終了後は懇談会をして楽しむ。

◇ほたる会―毎年新春顔合わせ会と地区文化祭の折、会員が地元で育てた蕎麦粉を使って、手打ち蕎麦を振舞っている。

◇山の寺子屋―立谷川の里親的な考えで、水質検査・両岸の雑木伐採・ゴミ拾い・川と親しむ会等をやっている。

◇書道クラブ―



〈おいしいよ！チョコバナナ〉

これら他に、子どもの安全を確保する「子ども見守り隊」。奥山寺の四季を案内する「山愛会」等がある。慈悲の心での奉仕活動に深く感謝します。

◇追分花壇愛好会―山寺の入り口の花壇に色とりどりの花を植え地区の方や観光客に楽しんでもらっている。市の花壇コンクールでは最優秀賞受賞の常連である。

◇やまごら組―山寺の高校生数名が集まり、小中学生と菓子作りをしたり、公民館での宿泊学習のお手伝いもしている。

〈そば打ち〉



◇蕉風会―

員が山寺小中学校へ出向いて俳句の指導をする。

山寺の遺産

十八夜塔

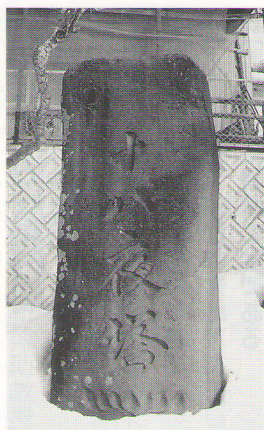
山寺には、石碑石仏が特に多い。これらの謂れについて、先輩の方々からお聞きしながら紹介したい。私達の先祖は、観音様の縁日である十八日夜に念仏することにより、現世のご利益（家内安全等）が受けられるという信仰があった。

写真は、この十八夜講中で建てた石碑で、銘は十八夜塔・十八夜供養・十八夜供養塔等いろいろである。

昭和初期まで、芦沢や千手院では正月十八日の早朝、新しく「青年団」に加入する若者が集まり、近くの川で水垢離をし、生き方の厳しいいきまを教えられた。

その後には餅を掲げ、裸で村内の十八夜塔参りをした。

地区内に建っているのは、享保から明治初期までのもので、講が最も栄えたのは、江戸時代中期と推測される。



「万が一に備えて」

平成十七年、山形県は、山寺地区のほとんどの集落（地藏堂・芦沢を除く）を「大規模災害（地震）が発生すれば、孤立する恐れがある地区」と指定した。これを受けて、山形市は、指定町内会に「乾パンの常備」、さらに千手院地区に「山寺地区災害時の連絡通信機」を配備した。

各自主防災会は、その防災意識の高揚、防災力を高めるために、

* 広報活動（防災情報回覧、防災ハンドブックの配布）

* 防災弱者支援研修会への参加

* 防災のための「非常用品準備」の啓蒙

* 非常時を想定した「炊出し訓練」

* 初期消火訓練等を行うことを申し合わせた。

今後、

* 起震車による震度体験

* 火災時の「煙からの避難」訓練を実施する予定である。



皆んなで目を

光らせよう

子ども見守り隊



当地区青少年健全育成連絡協議会では「地域の子どもの育てる目と見守る目」を柱として活動している。

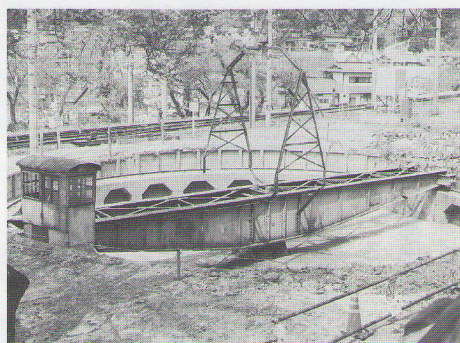
朝夕の登下校時には「声かけ運動」、日常の活動として地区内の危険個所の点検、不審な者はいないか等、パトロールを実施し「子どもを見守る」気運と意識の高揚に努めている。そんな折、国際ソロプチミスト山形（女性の社会奉仕活動団体）より「子ども見守り隊」の腕章と、自動車用マグネットステッカーの寄贈があった。この善意を子どもの連れ去りや、不審者による犯罪等をなくそうとの願いと受けとめ、これをはずみになお一層見守り活動に精進したい。

ちやうど昔の山寺

昭和30年代まで、山形ー山寺間を走っていた蒸気機関車。「近い将来、山形から山寺まで、蒸気機関車を走らせたい。」という想いで転車台をきれいに清掃した。



▶機関車の向きを変える台
（転車台）



話題の人

後藤 哲夫 さん
（千手院）

大正十五年二月二十日生

地区振興に思いを馳せて



地域に根ざした活動を続けられて八十年。家業の農業を基盤に据えてその観点から、山寺の振興を探り、努力を重ねて来られた。

十代の頃から農業の研究や実践発表で頭角をあらわし、二十九才の時山形県代表としてその成果を東大農学部で発表されている。

昭和五十六年から六期十数年間、山形市農業委員として市農政問題の数々の難問解決に献身。農政部長、広報編集委員長、農政審議会委員等を歴任。その功績により全国表彰に輝く。他表彰数知れず。

その間、山寺地区の要職を兼任、「山寺に後藤哲夫あり」と信頼抜群。『宝珠のしずく』創刊以来、編修委員としてニュースの執筆、校正等に大きな力を発揮された。

近年体調を崩され、仕事を減らしその回復に努めておられる。一日も早い復帰が期待されている。

おめでとう
金婚さん



武田さんご夫妻（所部）

お二人のご結婚は、昭和三十一年、山形市合併の記念すべき年でした。久之進さんは東京生まれ。十五歳の時、東京大空襲で家も工場も焼失。家族全員で山寺へ帰郷。炭焼き等山仕事に従事されたが、十七歳で父を亡くし、その後の苦労は並大抵でなかったと話された。二十五歳の時、所部内で顔馴染みの清子さんと結婚。『苦労ばかりで大変だったが、俺によくついてきてくれて、とてもありがたかったなあ。』と、ポロリ。



武田 久之進 さん
清 子 さん ご夫妻

お誕生

おめでとう

平成十七年 お誕生



- （馬形） 小笠原政彦氏二男 丈さん
- （馬形） 小笠原琢磨氏長男 悠介さん
- （南院） 佐藤 宏幸氏二男 慎哉さん
- （川原町） 五十嵐偉郎氏長男 駆さん
- （川原町） 佐藤 淳 氏長男 康生さん
- （芦沢） 山田 努 氏二男 拓武さん
- （宮崎） 武田 芳彦氏二女 彩希さん
- （地藏堂） 布施 浩憲氏二女 真凜さん

受賞・全国大会（敬称略）

・花壇コンクール最優秀賞（連続六回）
地蔵堂花壇愛好会

・全国高校総体（千葉）
卓球 遠藤 佳祐

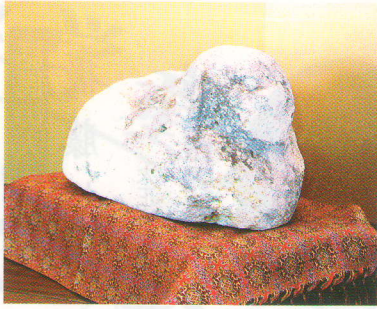
・全国小学校卓球大会（兵庫）
布施 流星

堀川あゆみ
遠藤 幸奈

平成十七年の物故者

謹んでお悔やみ申し上げます

- （千手院） 武田 健殿 ・後藤ミチ子殿
- 武田ふつの殿
- （所部） 莊司 玉子殿 ・増子 栄治殿
- 坂野 正英殿 ・武田 春雄殿
- 武田 秀雄殿
- （馬形） 東海林 斉殿
- （南院） 伊藤 幸一殿 ・大嶋きみよ殿
- （芦沢） 山田仁三郎殿
- （宮崎） 武田 光男殿 ・富樫栄三郎殿
- （地藏堂） 伊沢 くに殿 ・布施 セ工殿
- 矢萩 義春殿
- （中地藏） 布施 博殿 ・柏倉 文蔵殿



この狩猟犬の墓と言いつたは、
いる板碑
が、千手
院集落の
上手に磐
司磐三郎
愛犬の墓
と称され
て建つて
いる。

磐司磐三郎は、慈覚大師の山寺開
山に当たり、仏教の教えに帰依し、
殺生をやめ、立石寺創建に協力した。
磐司磐三郎の没後、その功績を讃
え、尊像（木像）と併せて、磐司に
仕えた狩猟犬の石像をつくり、祀つ
たと伝えられている。（石像は、凝
灰岩、体長約45cm、背丈約25cm）

山寺の文化財 磐司磐三郎の愛犬の石像

宝珠山立石寺所蔵

今年（平成十八年）の戌年にちな
んで、宝珠山立石寺秘蔵の磐司磐三
郎の狩猟犬（石像）を紹介する。

この石像は、以前、磐司磐三郎の
尊像と共に、五大堂後方の磐司祠（岩
洞）に祀られていた（現在は、立石
寺秘宝館に収蔵）。磐司の狩猟犬の
石像としては、我が国最古ではない
かとみられる。

元気でね!!

〜かじの木クラブより〜



平成十七
年十二月二
十七日、「山
寺かじの木
子どもクラ
ブ」とサニ
ーヒル山寺
との慰問交
流会がもた
れた。

当日、午

後二時開演。楽しみに待っていてくれ
た顔、顔が集い、ホールは満席。
いよいよ、子ども達の出演。

武田太久実君の落語「寿限無」。武
田君の落語家並みの巧みな話術、身
振り手振り
の熱演に、
入所者は息
を吞んで聞
き入った。

続いて、
武田君のお
母さん作の
紙芝居「寿
限無の桃太
郎」。子ど
も達四人で



の軽妙な演出に、どの入所者も、孫
を見つめるようなやさしい眼差しで
見入った。

最後に、クラブ自慢のリズムに乗
った「まつけんサンバ」の踊り。す
っかり心を奪われた様子。一呼吸お
いての喜びと感動の拍手喝采。

ある人は、いっぱいの笑顔で、「い
やあーすばらしい。久しぶりに楽し
い落語が聞けた。また来て欲しい。」
と語った。

子ども達も、「緊張したけど、こ
んなに喜んでもらえてよかった。ま
た会いに来たい。」と笑顔いっぱい。
握手を交わしながらの退席シーンが、
これまた感動的なひとコマであった。

この交流は、十一月末の「子ども
クラブ」の懇親会煮会の席での出し
物に魅了された運営委員諸氏が「こ
の出し物を『サニーヒル山寺』の方
々に楽しんでもらった
ら」という
ことになり、
早速、サニ
ーヒル山寺
鈴木事務長
と交渉、慰
問交流会が
実現した。



編集後記

宝珠のしずくは創刊以来十年目
を迎えました。当時の振興会々長
さんから「立谷川の清流も、始め
は一滴のしずくが集まって出来て
いる。今後も号を重ね山寺になく
てはならない存在にしてほしい」と
のメッセージを頂いた事を思い
出しています。

この間、地区の方々から写真の
提供、原稿の依頼などに心良くご
協力を頂き、編集員一同心より感
謝申し上げます。

今後の編集に御意見などありま
したらどしどしお寄せ下さい。お
待ち致しております。

編集委員

後藤哲夫 伊沢貞一 武田 誠
新関孝夫 布施晶嗣 田中文字
遠藤まき子



小型ポンプ積載車(写真)が川原町南院へ。
可搬ポンプが千手院へ配備された。